

研究課題名

アルドステロン産生腺腫の生物学的活性の評価、および、臨床的意義に関する検討

研究責任者名：

広島大学大学院医系科学研究科 糖尿病・生活習慣病予防医学 教授 米田 真康

研究期間

2020年1月29日(倫理委員会承認後)～2024年1月31日

対象者：

2008年11月～2018年12月に当院で原発性アルドステロン症の診断で手術施行され、さらに腎生検もしくは腎癌の手術を施行された患者さん。

意義・目的：

本研究では、アルドステロン産生腺腫 (APA: Aldosterone-producing adenoma) と診断され、手術された副腎組織を用いて、電子顕微鏡を用いた三次元的超微形態学的解析法により、ミトコンドリアや小胞体等の細胞内小器官を主に観察します。また、腎組織についても同様に解析を行います。これらの所見と臨床データや体細胞遺伝子変異の有無等の情報と比較検討する事で、APAの病態解明および発生母地を探求する事を目的とします。特に三次元的超微形態像の解析により、ミトコンドリアや小胞体を初めとする細胞内小器官の形態を定量的かつ詳細に解析する事が可能であり、各腫瘍細胞の生物学的活性や発生母地を探求する事でAPAの病態解明につながる意義の高い研究です。

方法

切除された副腎組織については、病理組織標本、凍結標本、電子顕微鏡用標本をそれぞれ作製し、ステロイドホルモン合成に関与する酵素の発現量やステロイドホルモンそのものの濃度を測定します。その他にもステロイドホルモン過剰産生に関与する体細胞遺伝子変異解析や関連因子の検索を行います。電子顕微鏡用標本ではミトコンドリアや小胞体等の三次元的超微形態学的観察を行います。これらの観察事項と血液や尿検査等の検査データを比較する事で、どのような症例においてアルドステロンの産生能が高いのか、腫瘍はどこから発生するのかを検討、解明します。

腎生検を施行している症例については同様の検討を腎組織でも行い、アルドステロン

共同研究機関

東北大学 研究責任者 笹野公伸

個人情報の保護について

本研究は広島大学疫学研究倫理審査委員会で審査を受けて承認をされています。研究

